

中国国家旅游局统编教材

旅游日语

第四册



旅 游 日 语

第四册

主编

于振田 李志刚

顾问

入江光太郎（日）

编写人员

王文质 岩田富美

安松龄 李志刚 于振田

漓江出版社

旅 游 日 语 (四)

于振田 李志刚 主编

•
漓江出版社出版

(广西桂林市南环路159—1号)

邮政编码: 541002

广西新华书店发行 桂林市印刷厂印刷

•
开本787×1092 1/32 印张16.5 插页2 字数277千字

1991年7月第1版 1991年7月第1次印刷

印 数: 1—3500册

ISBN 7—5407—0727—5/G·117

定价: 7.25元

编写说明

一、本教材是受国家旅游局教育司委托编写的以高等院校旅游日语专业学生为主要对象的一部专业性日语统编教材，供大学本科、专科一、二年级基础课教学使用，亦可作为旅游中专、旅游职业高中、旅游职工日语培训班和自学旅游日语的教材。

二、本教材突出专业特点，讲求科学性、知识性、实效性，采用目前国内外日语教育界经多年实践证明最行之有效的场面法编成。全书设置五十六个场面，是从一个日本普通旅游团用二十天时间游览我国主要旅游城市的所有场面精选出来的。通过这些场面，尽可能全面反映旅游接待中以导游为主的各个方面的实际会话内容。

三、本教材共分四册，由六十二课组成，全套教材大约用七百五十个学时学完。通过四册教材的学习，学生基本可以做到用地道的日语从事一般的导游工作。

四、为了突出听说领先的特点，本教材注重机械性、模仿性训练。每课（发音部分前几课除外）课文后面除编有“语法与句型”外，还编有“练习”。“语法与句型”对课文中出现的句型、语法现象尽可能都做解释，解释力求做到简单扼要，说明问题。“练习”是理解、掌握、运用课文中

句型的重要补充部分，通过“填空”、“替换练习”、“变换说法”、“问答”等形式，既可使学生正确理解学过的生词、句型，又可通过举一反三的方法，把课文中的东西变成自己的东西，收到实际运用的效果。

五、为了增加学生旅游方面的词汇量，扩大知识面，每课（发音部分前几课除外）还编有大都与旅游有关的补充课文和旅游词汇小辑。为便于自学，书后还附有课文、补充课文的参考译文。

六、本教材每课最后都有生词表，每册书最后都有“词汇索引”。

〈名〉名词	〈代〉代词
〈助〉助词	〈形〉形容词
〈形动〉形容动词	〈动〉动词
〈副〉副词	〈接〉接续词
〈连体〉连体词	〈感〉感叹词
〈接尾〉接尾词	〈五他〉五段他动词
〈五自〉五段自动词	〈上一他〉上一段他动词
〈上一自〉上一段自动词	〈下一他〉下一段他动词
〈下一自〉下一段自动词	〈助动〉助动词
〈サ他〉サ变他动词	〈サ自〉サ变自动词

◎①②③④……音调符号

七、本教材由于振田、李志刚任主编，参加本册编写的有入江光太郎、大倉奨英、王文质、安松龄、汪正志、刘利国、李志刚、于振田。

本书在编写过程中，得到了国家旅游局教育司领导，滴

江出版社领导及有关同志的亲切指导、帮助，在此一并致谢。

由于编者水平有限，加之时间仓促，书中可能有错误、疏漏之处，诚望读者能提出宝贵意见。

编 者

一九八七年二月

目 录

第48課	雑談会（本文その1）	7
	日本人と車（本文その2）	12
	注释	14
	课后阅读 名園散策	16
	言葉のメモ 鳥	26
	新しい言葉	28
第49課	上海にもどる列車の中で（本文その1）	31
	日本の38度線（本文その2）	34
	注释	36
	课后阅读 一枚の葉	38
	言葉のメモ 魚類	43
	新しい言葉	44
第50課	工業展覧会見学（本文その1）	47
	日本の都市（本文その2）	51
	注释	53
	课后阅读 夕暮の海	56
	言葉のメモ 業（産業、商業、工業、 建築など）	72
	新しい言葉	73
第51課	農村見学（本文その1）	77

	義理人情の好きな日本人 (本文その 2)	81
	注釋……………	84
	课后阅读 自然への回帰の旅……………	85
	言葉のメモ 野菜……………	90
	新しい言葉……………	91
第52課	座談会 (本文その 1) ……	95
	日本人の好奇心 (本文その 2) ……	99
	注釋……………	101
	课后阅读 悠久たる三千年のたたずまい	103
	言葉のメモ 政治・革命……………	111
	新しい言葉……………	112
第53課	衣服のショッピング (本文その 1) ……	116
	日本人の「遊び」観 (本文その 2) ……	120
	注釋……………	122
	课后阅读 あこがれの西域紀行……………	124
	言葉のメモ 物品……………	129
	新しい言葉……………	130
第54課	宴会 (本文その 1) ……	132
	日本人の敏感さ (本文その 2) ……	138
	注釋……………	140
	课后阅读 挨拶のいろいろ (その二) ……	143
	言葉のメモ 料理のいろいろ……………	147
	新しい言葉……………	148
第55課	取材 (本文その 1) ……	152

	自然や景観を楽しむ観光地（本文その2）	155
	注釋	157
	課后阅读 新聞とその読み方	160
	言葉のメモ 食（その2）	166
	新しい言葉	168
第56課	帰国する前夜（本文その1）	170
	日本の歴史や文化を尋ねる観光地 （本文その2）	173
	注釋	175
	課后阅读 瀬戸内の美しさについて	177
	言葉のメモ 経済・収支	183
	新しい言葉	184
第57課	帰国の朝（本文その1）	187
	日本の観光地（本文その2）	189
	注釋	190
	課后阅读 山々がおりなす幻想美	191
	言葉のメモ 救護・世話	197
	新しい言葉	198
第58課	空港へ行く途中（本文その1）	199
	日本人はなぜ良く働くか（本文その2）	202
	注釋	203
	課后阅读 大和路幻想	205
	言葉のメモ 学習	210
	新しい言葉	212

第59課	忘れもの (本文その1)	214
	日本の名字 (本文その2)	217
	注釋	220
	课后阅读 敬語の将来	222
	言葉のメモ 談話	231
	新しい言葉	232
第60課	空港で (本文その1)	234
	日本人の国民性 (本文その2)	238
	注釋	237
	课后阅读 琉球弧の世界観	239
	言葉のメモ 税関	243
	新しい言葉	244
第61課	日本からの手紙 (本文その1)	246
	日本の文学 (本文その2)	248
	注釋	251
	课后阅读 手紙の整え方	253
	言葉のメモ 通信・伝達 (その1)	279
	新しい言葉	280
第62課	日本への手紙 (本文その1)	284
	日本の歴史 (本文その2)	285
	注釋	288
	课后阅读 手紙のいろいろ	290
	言葉のメモ 通信・伝達 (その2)	303
	新しい言葉	304
	参考译文	307

第48课	漫谈会·····	307
	日本人与汽车·····	311
第49课	在返回上海的列车上·····	312
	日本的“三八”线·····	314
第50课	参观工业展览会·····	315
	日本的城市·····	318
第51课	参观农村·····	320
	重视伦理人情的日本人·····	323
第52课	座谈会·····	325
	日本人的好奇心·····	328
第53课	选购衣服·····	330
	日本人的“娱乐”观·····	333
第54课	宴会·····	334
	日本人的敏感性·····	338
第55课	采访·····	340
	日本的自然景观旅游地·····	342
第56课	回国前夜·····	344
	日本的历史文化旅游地·····	346
第57课	回国当天的早晨·····	348
	日本的旅游胜地·····	349
第58课	去机场的途中·····	350
	日本人为何劳动肯卖力·····	352
第59课	遗物·····	253
	日本人的姓氏·····	355
第60课	在机场·····	357
	日本人的民族性格·····	359

第61课	来自日本的书信.....	360
	日本的文学.....	361
第62课	寄往日本的信.....	363
	日本的历史.....	364
总词汇表		367

第48課 雑談会（本文その1）

A: 主催者

B: 中国側の老人協会会長

C: 中国側の婦人連合会会長

D: 日本人観光客

E: 日本人観光客

A: では、ご紹介します。こちらは××市老人協会会長周浩さんです。こちらは××市婦人連合会会長劉潔青さんです。こちらは日本××市福祉協議会会長の中山さんです。こちらは同じく××市婦人協会会長の山口さんです。

B、C: ようこそおいでくださいました。はじめまして、よろしく。

D、E: こちらこそ、よろしくお願いいたします。

D: 本日は、ご多忙中のところ、お話を聞かせていただき、誠にありがとうございます。実は、ご存じのように、日本は高齢化社会になりつつあって、高齢化社会対策という仕事はだんだん重要視されてまいりました。しかし、実際にこの仕事にたずさわってまいりますと、さまざまな困難なことが起きてくるものです。

でも幸いに、このたび貴国を訪問する機会に恵まれて、先生方のお話を拝聴することができ、大変嬉しく存じます。この際、なにとぞよろしくお教えくださいますようお願い申し上げます。

- B: それはお互いさまです。私どもでできますことなら、どんなことでもお答えいたしましょう。
- D: あおう、日本では、会社勤めの方たちも政府機関、学校などに勤めている方たちも、一般には六十才になれば、停年退職となりますが、中国ではどうなんでしょうか。
- B: その面ではこちらでも大体同じですが、ただ、女性の人は五十五才で停年です。肉体労働者の場合は、それぞれ五年早く停年退職します。
- D: はあ、そうですか。それでは停年退職してからの生活はどのように保障されているのでしょうか。
- B: 生活の面では、困ることはまずないと思います。聞いたところでは、おたくの国では、労働者でも、公務員でも、停年になる時、会社あるいは国から一回で全部の退職金をもらうそうですが、中国ではすこし事情が違います。たとえば停年になった人には、前と同じく毎月給料が支払われます。その金額は、勤続年数によって前の給料の60%から100%までの割合で支給されます。
- D: 日本では、一時退職金のほかに、それまで加入していた共済年金や厚生年金からも年金をもらうこ

とができるのですが、中国ではいかがでしょうか。

B: それはないんですね。中国では、今までそういう保険制度もありませんでした。ただ毎月支給される退職金が、日本の年金に相当するものではないかと思います。

D: そうですか。分かりました。次は、中国における老後の生活ですが、大体どんな生活をしていらっしゃると思いますか。

B: それは人によって違いますよ。退職してからも、続けて軽い仕事をする人もいれば、家に居る人もいますね。しかし、各政府機関、民間機関の方でも、停年退職者の老後の生活を保障し、それをもっと楽しく、幸せにするために、いろいろな施設を設けて、老人に活動する場所を提供しています。ですから、老後の生活は結構幸せですよ。

D: それはそうでしょうね。人間は年を取ると、お金があるというだけでは、必ずしも幸せだとは言えませんからね。精神生活も大変重要になってきます。停年退職したからと言って、それで社会から完全に隔離されるようなら、とても不幸なことになります。

E: 中国では女性の社会的地位は大変高いと聞いておりますが、その面ではどうでしょうか。

G: 新しい中国ができてから、中国政府は、女性の社会的地位を向上させるためにいろいろ努力してきました。法律の中にも、「男女平等」，「婚姻の

自由」；「同工同酬」（同じ仕事をすれば、報酬も同じであること）などの条文がありますからね。こうした法的措置によって、女性の社会的地位も、根本的に保障されています。

E: しかし、女性が結婚したら、家庭のこと、育児のことなどいろいろあると思いますが、結婚してからも仕事を続けるのは、無理ではないでしょうか。

C: それはありますよ。しかし、政府は、女性を保護するために、さまざまな具体的な保護策を設けてきました。例えば、赤ちゃんが生まれたら、出産、育児休暇がとれますし、出勤後赤ちゃんの授乳期には、毎日二時間の授乳期間が与えられます。もちろん、そのために給料が減額されるということはありません。

E: そうですか。それは羨ましいですね。でも、夫婦共稼ぎの家庭では、奥さんが仕事から帰って、また家事をしなければならないでしょうから、大変ではありませんか。

C: もし、奥さんだけが家事をきりもりするとなれば、それは「男女平等」にはならないでしょう。でも、中国では、ほとんどの家で家事は、夫婦二人で協力しますよ。ですから、それほどでもありません。

E: そうですか。なるほど。日本では男の人は家事を手伝いませんから、つい、中国でも同じだろうと思ってしまって、すみませんでした。その面では、

中国の女性はほんとうに幸せと言えますね。

D. 日本の男性はだめだということかな。

E. いいえ、そういうつもりではないんですが……。
日本の男性は家庭の中では、少し横暴すぎるよう
ですね。 ^{大丈夫で一切} ^{でい} ^{かんはく}

D. たしかに「亭主関白」のきらいはありますね。

C. そうですね。習慣も違いますから、仕方ない面も
あるでしょう。しかし、最近では、中国でも、女
性は結婚すると仕事を止めるべきか、続けるべき
かという議論も出はじめているようです。

E. えっ、それはどういうことですか。

C. つまり、全国で現代化の改革がすすめられてきま
ずと、各企業では、集団請負い制などが実施され
るようになったでしょう。 ^{うけと} ^め ^{それ}そのせいでしょうか、
多くの企業では女性工員を受け入れるのに難色を
示しはじめ、女性の就職がだんだん難しくなっ
てきました。

E. そうですか。日本でも、近ごろでは、女性が結婚
後も仕事を続けたいという人が多くなってきたよ
うです。しかし、就職先が少ないために、やはり、
難しい問題があるようですね。

C. とにかく、「男女平等」というのは口では簡単に
言えますが、具体的なことになると、おっしゃ
るとおり、問題が多いと思います。

E. 私たちはこうした問題について、たとえ社会制度
の違いはあっても、互いに協力しあって、進んで
行きたいものですね。